

氏名	高橋 生
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 6016 号
学位授与の日付	令和元年6月30日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Impact of Disease Complexity on Cardiovascular Events After the Transition to an Adult Congenital Heart Disease Specialized Medical Unit (成人先天性心疾患センターへ移行後の疾患複雑性が心血管イベントに与える影響)
論文審査委員	教授 笠原真悟 教授 成瀬恵治 准教授 入部玄太郎

学位論文内容の要旨

成人期先天性心疾患(ACHD)患者の増加に伴い、それに特化した診療の重要性が認識されつつあるが、ACHD患者の心血管イベントについての報告は本邦では限られている。本研究ではACHD患者の疾患複雑性と心血管イベントの関連について調査した。2014年から2017年の間にACHD外来を受診した連続535名(年齢中央値35歳)の成人患者を対象とした。3年間の無イベント生存期間は軽度/中等度/高度複雑群(simple群/moderate群/complex群)それぞれで85%,65%,58%であり、複雑性が増すに連れ有意にイベント発生が多くみられた。多変量解析ではさらに年齢、肺高血圧、腎機能が独立したリスク因子であることが明らかになった。イベントの内訳はsimple群では不整脈が、moderate群では開胸手術が、complex群では心不全が最も多くみられた。

論文審査結果の要旨

研究の背景と目的：成人期先天性心疾患(ACHD)患者の増加に伴い、新たなそれに特化した診療体制の整備が重要である。しかしながら小児期から成人期とった年齢、および診療料を超えた移行の問題もあり、全国でもこの診療が整備されているのは9施設のみある。本研究はこのACHD患者に対する心血管イベントと疾患複雑性との関連を調査した臨床研究である。

研究の成果：本研究では、単一施設での3年間という限られた期間ではあるが、多くのACHD患者に対し、検討を行った。

予備審査における疑問点や問題点：複雑性の指標をBethesda分類に基づいて行ったが、分類そのものが複雑で、全てを網羅しているとは限らない。しかしながら、この領域における分類は内科が主体になるか、外科が主体になるかによって大きく項目が変わり、より複雑になる。そのため、この分類に準じた多くの文献にならない、分類を行ったものである。Simpleな症例においても、観察期間の初期には多くの死亡症例が認められ、注目する結果と考えられた。今後の全国での研究のパイロットとなるにふさわしい研究で、研究者はさらなる解析を進めており、その意味でもこの研究は価値ある業績と考える。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。